

みなさん、おはようございます。

私たち教職員一同は、諸君らの入学を心から歓迎します。ご入学おめでとう。

この入学式には、中村 保博 福井県副知事、小堀 友廣 福井県議会副議長、河合 永充 永平寺町長、中山 和憲 福井県立大学後援会長、田安 拓馬 福井県立大学同窓会副会長 をご来賓としてお迎えしております。

年度初めの、ご多用の中、ご臨席賜り誠にありがとうございます。

はじめに、志についてお話しします。

「志」は、英語では「ambitious」。「Boys be ambitious」のお話です。

中学校や高校で、なりたい自分、なってみたい社会人像、手がけてみたい仕事、気に入った職業などを見つけていることが、これからの志を育む土台になることが多いです。

「志」は、やる気に加えて、社会性が加味されていると思っています。

安全安心な食品を提供したい、困っている人を助けたい、よい先生になりたい、などです。「志」を大学で育てていってください。

次に、大学での学びについてお話しします。

皆さんは大学での学びを、どのようにイメージされていますか？

私は、正解が一つとは限らない社会で、働くための助走ととらえています。

小中高では、基礎を学ぶことが必須です。明らかになったことを学びます。

先生方は、明らかにできたことを確認したいので、試験の答えは限定されます。

一方、社会は常に複雑です。環境変化は地球規模で考えないといけませんが、国々は

固有の選択を行い場面ごとで、アプローチが異なってきます。

諸君らは、小中高で、答えのある勉強を行ってきて、大学生活の後、正解が一つとは限らない社会で、生きていくことになります。

このように考えますと大学は、直面する課題、降ってわいてきた困難、予想を上回る難題を、深く考え、自分なりの解決策を提案できる力を養う場と考えるとよかろうと思っています。

人間力を向上させてほしいので、福井県立大学は、講義と共に、演習、実習、フィールドワーク、インターンシップなどの体験学習を多数準備しています。

体験学習は、志を確認する場であったり志を見つける場となるでしょう。学生諸君ひとりひとりが、たくさんのメニューから、マッチングしたものを見つけられることを希望しています。

多様な課題に柔軟に対処する能力は、頭と体のバランスを必要とし、座学と体験学習の繰り返しで開発されると確信しています。

自分とマッチングする先生を見つけ、ゼミや卒業研究において、答えのない課題・問題に挑戦し、なにがしかの結論を導く経験が大学生活の醍醐味であると思います。

最後に、クラブ・サークル、ボランティア活動を奨励する私の思いをお話します。

諸君らが、クラブ活動を始めるようになると目標ができます。そこで、自ら努力することが始まります。思い通りにいかないと先輩に聞くようになります。再び努力します。努力が実りだすと、欲が出ます。欲が出ると、初めて、粘る(あきらめない)という心が芽生えます。

この繰り返しが、人間力を向上すると思っています。これは、先ほど述べた、座学と体験学習の繰り返いで、成長していくことと、きわめてよく似ています。

一芸が身を立てるとは、恐らく、一芸だけが大切というより、一芸を求める過程の中で、社会性が身につくこと、粘ることを覚えること、人間力が向上することにあると思います。

福井県立大学は、このような意味で、クラブ・サークル、留学、ボランティアなどの社会活動を積極的に支援します。

勉学に、クラブ・サークルに、自分のペースで、思いっきり、挑戦してください。

皆さんの入学を歓迎し、式辞といたします。

令和5年4月7日

福井県立大学長

岩崎 行玄